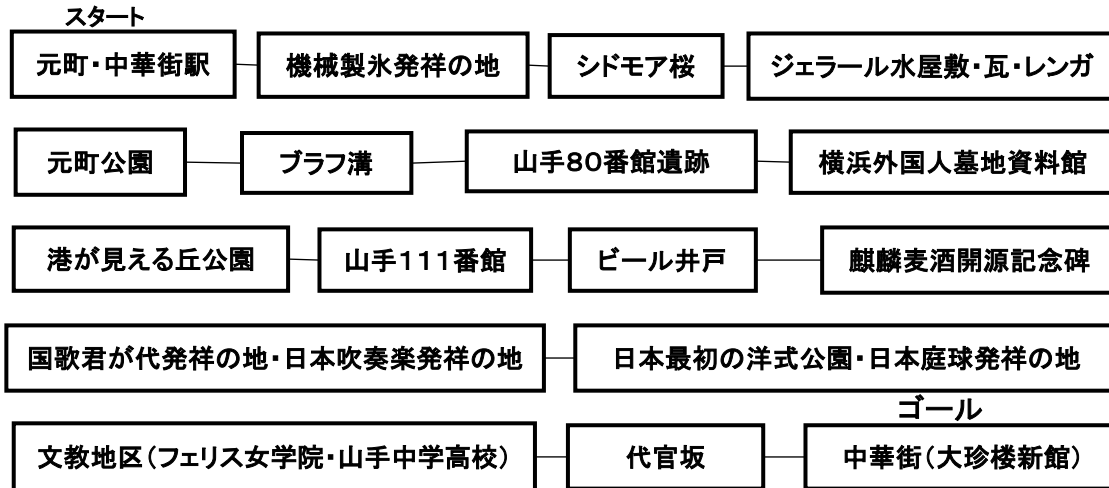


横浜山手地区散策 & 忘年会



横浜開港で海外の新しい文化が数多く伝来しました。今も横浜にはその痕跡が沢山残っています。今回はその痕跡を求めて横浜山手を散策しましょう。

【機械製氷発祥の地】

1879(明治12)年、オランダ人ストルネブリックがここに横浜初めての製氷工場を開業しました。一度は震災で倒壊したものの、再建され、1999(平成11)年まで当時の姿で稼働しました。

【シドモア桜】

米ワシントンポトマック河畔の桜は有名ですが、これは1912年に日本(東京市)から3000本の苗木が贈られたものでした。その移植に尽力したのがエリザ・R・シドモアです。1928年移住先のスイスで永眠しましたが、日本政府の配慮で彼女の遺骨は母と兄が眠る横浜山下外人墓地に眠ることとなりました。1991年ワシントンから里帰りした桜が墓前に植えられ、シドモア桜と名付けられました。枝分けした桜が今ここに植樹されています。日本からの桜の返礼にハナミズキ60本が1915年にアメリカから贈られました。

【ジェラルムの水屋敷・瓦とレンガ】

フランス人ジェラルムはこの谷戸から湧き出る良質な湧水に着目し、貯水施設を造り、パイプで水を船舶に送り、販売する給水業を営み、この施設が水屋敷と呼ばれて現存しています。この横浜の水は赤道を越えても腐らないと評判になったとの言い伝えもあります。また、居住を始める外国人が多くなったことから住宅の需要が増え、西洋瓦の需要が高まりました。これに目を付けたジェラルムが日本最初の西洋瓦とレンガの製造工場を作りました。今も公園プール管理棟の屋根瓦の一部は当時のものが残っています。

【ブラフ溝・山手80番館遺跡】

かつて山手は切り立った崖が続きブラフと呼ばれていました。この展示は、1874(明治7)年から翌年にかけて施設された石造りの道路側溝です。山手80番館遺跡はマグワン夫妻の住宅跡です。3階建ての建物でしたが、大正12(1923)年の関東大震災で倒壊し、現在は地下室や基礎部分だけが残し、被害状況を今に伝えます。この一帯はかつての外国人居住地に中心地でしたが、浄化槽を備え、古き良き横浜の居留外国人の華やかな暮らしをうかがい知ることが出来ます。

【横浜外国人墓地・資料館】

19世紀～20世紀半ばにかけての40か国余、約5000人の外国人が葬られています。1854(嘉永7)年、寄港したアメリカ海軍のマストから墜落死した水兵の埋葬をペリーが要求したため横浜村の増徳院の境内の一部に埋葬され、1861(文久元年)に外国人専用の墓地と定められました。シドモア女史はじめ数多くの有名人も眠っています。資料館には、埋葬者の業績を紹介する資料などが展示されています。

【港の見える丘公園】

横浜港を見下ろす丘にある公園で、横浜ベイブリッジを望む絶好のビューポイントです。公園内にはバラで有名な「イングリッシュローズの庭」や「横浜市イギリス館」、「大佛次郎記念館」などがあります。天気の良い日には、スカイツリーや東京タワーも遠望出来ます。

【山手111番館】

スペイン風スタイルの洋館で、1926(昭和元)年に米人ラフィン氏の住宅として、モーガンの設計です。赤い瓦屋根に白壁の建物は、地階がコンクリート、地上が木造2階建ての寄棟造りで、居住地時代の面影を残す洋館です。今は一般公開され、喫茶室もあります。

【麒麟麦酒開源記念碑・ビール井戸】

この一帯はかつて、天沼と呼ばれる清水の湧き出る地域でした。
1870(明治3)年、米国人ウィリアム・コーブランドが「スプリング・バレー・ブルワリー」というビール醸造所を作りました。これが日本で初めて継続的にビールを醸造・販売を行う「日本のビール産業の祖」といわれています。その後ジャパン・ブルワリーに引き継がれ、1888(明治21)年に「麒麟ビール」が発売されました。
1907(明治40)年には、麒麟麦酒株式会社が設立され、1923(大正12)年の関東大震災までこの地でビール醸造を行っていました。
北方小学校の校庭の一部に、1895(明治28)年から7年間ビール作りに使われた井戸が残っています。

【妙香寺＝日本吹奏楽発祥の地・国歌君が代発祥の地】

妙香寺は814(弘仁5)年弘法大師の創立とされ、境内には「君が代発祥の地」、「日本吹奏楽発祥の地」があり、横浜における西洋文明発祥の歴史を紐解く地となっています。

・日本吹奏楽発祥の地

ペリーは横浜上陸時軍楽隊を伴って行進し、日本人は驚愕しましたが、楽しんでいました。開国後外国人への殺傷事件が起きました。その為各国は軍隊を駐留させ軍楽隊も帯同しました。有名な「生麦事件」が発生し、それをきっかけに薩英戦争が勃発しました。
1863年の薩英戦争で13人を水葬する際の葬送曲や停泊中の英軍艦の中での演奏に魅了された島津久光は対立から友好へと大転換し、自藩の洋式化を英軍に要請しました。32名からなる「薩摩藩洋楽伝習生」をフェントンの指導の下「サツマバンド」を創設しました。このメンバーが妙香寺を寄宿舎として訓練に励み、英字紙にその驚くべき優秀さが記事となり、日本第1号の吹奏楽隊となりました。

・国歌君が代発祥の地

明治2年、英国公使館護衛の為に横浜に駐屯していた英国陸軍常備歩兵隊第10番隊軍楽長ジョン・ウィリアム・フェントンは、伝習生への指導を始める時、日本に国歌があるならそれから始めようと提言しましたが、その時点で日本には国歌がありませんでした。薩摩藩の砲兵隊長「大山巖(西郷隆盛の従兄弟で明治の元老)」が、英国のエジンバラ公の来日もあり、儀礼に演奏する国歌の必要性を感じていました。
そこで、フェントンに作曲を依頼し、賛美歌風のメロディーで作成されました。しかし初代の君が代は美しいメロディーでしたが、歌詞と合わず歌いにくかったことで作り直されました。新しい曲は宮内省により雅楽調に直され、ドイツ人のエッケルトが吹奏楽用に編曲しました。これが現在の「君が代」となりました。
尚、フェントン作の君が代は毎年体育の日(10月10日)に演奏会で聞けるそうです。是非！

【山手公園＝日本最初の洋式公園・日本庭球発祥の地】

1870(明治3)年に横浜居留外国人によって作られた、国内初の洋式公園です。「サツマバンド」もここで最初の演奏を披露して、外国人・日本人からも喝采を浴びた様です。園内のヒマラヤスギが日本で初めて植えられて、ここから全国に広まりました。また、1878(明治11)年外国人専用の5面のコートが作られ、近代テニスが本格的に行われる様になりました。近くにテニスの歴史や衣装の変遷などを展示した発祥記念館があります。

【代官坂】

元町から山手へ通じる坂道で、横浜開港期横浜村名主石川徳右衛門の居宅があった為、「代官坂」と呼ばれる様になったと言われています。居留外国人の通勤路にもなりました。石川徳右衛門は日米和親条約締結の際に応接場や食料、設備などの一切を取り仕切り、1854(嘉永7)年ペルーが上陸して住民の暮らしぶりを視察した際に徳右衛門の屋敷を訪れたと、ペルー提督日本遠征記に書かれています。徳右衛門は横浜町総年寄りとなっています。